

編集後記

昭和の時代、一本の標柱がたつばかりの広田遺跡は、平成の時代に国の史跡となり、墓地を含む砂丘全体が保存され、史跡公園として整備された。いまは遺跡の傍らに町立の博物館（広田遺跡ミュージアム）がたち、訪れる人を地元の「語り部」の方々がにこやかに迎え、館から遺跡へと導いてくれる。

私が広田遺跡に出会ったのは、大学3年生の春、訪問した熊本大学の白木原和美研究室においてであった。そこでたくさんの貝符の拓本を示され、それが余りにきれいだったのでコピーさせていただき、帰宅してカードに整理した。これが遺跡とのつき合いの始まりである。

今回の共同研究では、土器班、貝符班、人類班のメンバーが、それぞれの対象を、研究の基本にたちもどって調べ、実直に作業し、追究し、結果をだした。おかげで広田人の姿やその社会について多くの知見が得られた。メンバー各位と各班のチームワークに心から感謝したい。報告書の印刷では、シモダ印刷にひとかたならぬご配慮を賜った。併せてお礼申し上げます。

私事ながら、私はこの春大学を退職する。『広田遺跡の研究』をもって大学生生活を終わられることが何より嬉しい。本書が、これからの広田人研究の糧となれば幸いである。

木下尚子
2020年3月5日

広田遺跡の研究

人の形質・技術・移動

発行日 2020年3月25日

編集 木下尚子

発行 熊本大学文学部 木下研究室

熊本市中央区黒髪2-40-1 〒860-8555

印刷所 シモダ印刷株式会社

熊本市中央区上水前寺2丁目16-16 〒862-0951

tel : 096-383-5512 fax : 096-386-5454